

支部訪問 (6) 小田原・足柄下支部

2015.9 記録

9月11日に小田原に行き、支部の人たちにお会いしました。初めは別の日にお願いしようと思ったのです。でも夕刻から支部の懇親会があるとのことなので、その懇親会に出席させて貰う為にこの日に小田原に行きました。



懇親会は午後6時半からなので、その前の6時からお会いしようという津田支部長さんの御希望でした。私としては30分では時間が短くて実のあることは何も聞けないので小田原・足柄下支部の現状及び活動について質問した用紙を送って、事前にそこに答を書いて頂き11日に頂戴できるようにお願いしました。ですから次に記した「対談」は、当日の短い時間の対談と、あらかじめ用紙に記入して貰っていたこととをミックスして書き直したものです。

後半部分の「懇親会の記録」は当日の懇親会の様子で、私が見聞したことの一部をそのまま書き記しました。



小田原・下支部長 津田 博さん

対 談 小田原・足柄下支部 の 現状を語る

語り手 支部長 津田 博 (昭和45年卒)
聞き手 弘報部 黒川 鈴谷 (昭和35年卒)

黒川 今日小田原・足柄下支部の懇親会が6時半からあるそうで、その前の慌ただしい時間をさいて対談に応じて下さいますありがとうございます。事前にお渡ししてあった質問に従って、順にお聞きして行こうと思います。

先ず最初の質問ですが、4年前には西湘ブロックにあった足柄下支部が今では無くなり、小田原・足柄下支部となっています。これはどういう事情によるのでしょうか。

津田 この件については当時の支部長だった江島 紘先生(昭和40年卒)が詳しいのですが、私の知っている範囲でお答えすると足柄下支部は学校数の減少によって、支部としての活動が難しくなったという事情がありました。旧足柄下支部管内の学校は最終的には小学校7校、中学校は3校でした。この校数では一つの独立した支部としての活動は無理なので小田原支部と合併しようという話になり、友松会本部に伺いをたてました。するとそちらの事情で都合のよいようにして良いとのことでした。また、小田原市と足柄下郡は旧足柄下教育事務所管内で、教員人事を一市三町で行っていたので、その点でも大きな問題はありませんでした。そこで足柄下支部と小田原支部は合併して小田原・足柄下支部となったのです。

黒川 そうですか。実は私は戦争中の学童疎開で仙石原に7カ月滞在したことがあり、足柄下郡には懐かしさを感じるのですが、学校数がそんなに減ってしまったのですか。時の流れを感じますね。

ところで現在の支部の状況をお尋ねしますが、小・中合わせて何校ありますか。

津 田 小田原市内の小学校は 25 校、中学校は 11 校です。その他、湯河原町に小学校 3 校・中学校 1 校、真鶴町に小・中 1 校ずつ、箱根町に小学校 3 校・中学校 1 校です。併せて支部全体では小学校 32 校、中学校 14 校です。



小田原提灯のぶら下がる、駅改札口

黒 川 それらの学校の職員数・校内会員数・管理職会員の数など分かりますか。

津 田 それらの数字は、お送りいただいた用紙に分かる範囲で記入しておきました。ただこの数字は今日さし上げました「平成 27 年度 友松会小田原・足柄下支部総会議案書」にも載っています。

黒 川 あ、なるほど。議案書にはとても詳しくそれぞれの人の名前・住所(郵便番号)・卒業年度・電話番号まで載っていますね。しかも OB の会員だけでなく、現職会員の名簿も勤務校ごとに住所・電話番号が付いて載せてある。これは便利ですね。

この議案書の現職会員数を見ると小学校 83 名・中学校 14 名、他に行政関係の部署に 8 名ですね。合計 105 名ですか。支部内小学校の職員数が 695 名ですから小学校では会員の比率は約 12%になり、だいたい他の支部と同じような比率だと思います。校外会員の数と最近三年間の変化はどうでしょうか。

津 田 平成 25 年度が 170 名、26 年度が 151 名、27 年度が 144 名で、少しずつ減っていく傾向にあります。

黒 川 校外会員が減少して行くのは小田原支部だけでなく、県下のどの支部にも見られる傾向ですね。会員全体の減少を補うには校内会員に新卒者が入ってくれば良いのですが、そちらの方はどうですか。

津 田 支部に入ってきた国大新卒者の数は、この三年間で小学校に 3 名、中学校に 1 名です。

黒 川 すると 3 年間で差し引き 22 名会員が減少したことになります(170 -144+4)。これは小田原支部だけでなくどの支部でもみられる傾向ですが、この会員の減少傾向は友松会全体の大きな問題点ですね。

ところで小田原支部では OB が支部長をなさっています。これは忙しい現職が務めるのに比べると利点があるのですが、一方で校内会員との繋がりと言う点で難しさがあるのではと思います。この辺りはどのようにされていますか。

津 田 これも総会議案書をご覧になるとお分かりと思いますが、支部役員 14 名のうち副支部長 2 名と支部委員 1 名、本部理事 1 名と会計及び会計監査の合計 6 つの役員は校内会員です。なお副支部長の 1 名が会計を兼ねていまして校内会員の役員は実質 5 名です。特に校内会員の副支部長 2 名と支部委員 1 名が、支部事務局の役



丹沢山地より小田原方面を望む



割を勤めて支部長を補佐しています。これらの現職の支部役員を通して、校内会員との意思疎通が出来るように努めています。また各学校に在籍する校内会員の中で1名をその学校の責任者と決めて、支部との連絡に当たって貰っています。

小田原城 黒川 各学校の責任者が決まっていれば、支部との連絡もスムーズにいきますね。校外会員は校内会員のように纏まっておらず、バラバラに居住しているのですが、それらの会員との連絡はどうしていますか。

津田 これも議案書に書いてありますが、小田原・足柄下支部には現在144名の校外会員がおり、27の地区班に所属しています。各地区班には地区委員がおり支部役員との連絡をしたり会員を戸別訪問して会報の配布・会費の徴収などに当たっています。

黒川 校外会員はそれぞれの場所に住んでいるので、そういう組織がないと不便だし、会員の把握が出来ませんね。とても大切な組織なのですが、これまでに回った支部ではどこも、会員の減少と高齢化によって地区委員の人選がなかなか難しくなっていると言うことを聞きましたが、この支部ではその点はどうでしょう。

津田 当支部でも地区委員の高齢化がかなり進んでいます。地区委員の卒業年度を見ると昭和20年代が1名・昭和30年代が8名いますがそれらの地区班の中で、四つの班にはその人より若い人はいません。ということは後を継ぐ人が見つからないのです。

黒川 会員の老齢化と後を継ぐ会員の減少と言う問題が、どこの支部にでもあるのですね。ところで小田原・下支部として現在取り組んでいる活動や、将来取り組みたい活動にはどんなことがあるか、また現在直面している問題は何かなどお教えください。



小田原市役所

津田 支部としての活動は、支部役員会・地区委員会・支部総会・現職会員とOB会員との懇親会などで、どこの支部でもやっているような一般的な活動です。特別にお話しするような活動は行っておりません。

また現在直面している問題としては、会員の減少と退職後のOB会員に友松会から抜きたいという人が増えてきていることと、管理職の会員が年々減少しており、将来は支部の運営面で影響が出るのではと心配なことなどです。

黒川 いま支部長さんは「どこの支部でもやっている一般的な活動」と言われましたが、そういう日常的な活動こそ大切なのではないですか。現に私の支部などでは、そういう活動がきちんと出来ていません。地区委員や各学校の責任者も決まっています。だから日常活動がきちんと出来ないのです。それに比べてこちらの支部はとてもきちんとしていて、日常活動もきっと立派なのではないかと思えます。

津田 おほめ頂いて恐縮ですが、今日の懇親会にも就職後1~2年の若い現職の会員が参

加してくれる予定です。そういう若い力が育っていることは少し自慢出来るのではと思います。

黒川 いや、本日はお忙しい中でお話頂きまして、ありがとうございました。それではこの後の支部懇親会にも参加させていただきます。

小田原・足柄下支部 懇親会の記録

平成 27 年度 友松会 小田原・足柄下支部懇親会に参加して

支部長さんとの対談の後、6時半から開かれた支部の懇親会に参加しました。とても楽



神奈川県下での小田原・下郡の位置
黒線の中が、小田原・足柄下地区
赤色部分が、小田原市

しい会でしたが、なにしろ懇親会つまり宴会ですから対談や座談会のように焦点化して記録を取ることは出来ません。会の雰囲気何とか文章表現しようと苦心したのですが、雰囲気と言うのは個人個人が肌で感じるものですからそれを文章化するのには、至難の技と言うよりも不可能でした。

ついに諦めて、参加者の近況報告などレコーダーに残っている個人的な発言を中心にまとめました。ですから会の雰囲気については十分に伝えきれない感じがありますが、ご容赦下さい。

1. 日 時 平成 27 年 9 月 11 日(金) 午後 6 時半より
2. 会 場 小田原駅前 「魚がし」
3. 会 費 3,000 円
4. 参加人数 14名(男 10名、女 4名) そのうち支部役員は 4名(男 2、女 2) (但し人数に黒川は入れていない)
5. 参加者の卒業年度 (男) OB 昭和 21 年、昭和 32 年、昭和 40 年、昭和 45 年
現職 昭和 55 年(2)、昭和 56 年、昭和 58 年、平成 26 年(2)、
(女) OB 昭和 44 年、
現職 昭和 55 年、昭和 56 年、平成 26 年

6. 会の内容

・開会の言葉一橋口支部委員(湯本小)

今日は一つうれしいことがありました。それは何かと言うと箱根の警戒レベルが 3 から 2 に変わったと言うことです。もう一つ、私が聞いてうれしい言葉は「先輩・後輩」と言う言葉です。この先輩・後輩という言葉の響きは耳に心地よく好きです。今日はその先輩・後輩が一堂に会して話が出来のを楽しみにして居りました。では始めます。

・支部長挨拶一津田支部長

8 月 22 日の総会の後にも懇親会をやったのですが、それから幾日も経たない今日の懇親会にもまた多数の方々に参加して下さい、ありがとうございます。

今日は県の友松会から常任理事で弘報担当の黒川さんが、取材を兼ねて参加されました。会の途中で皆さんに何かお聞きになることもあるかもしれませんが、その時は思った通りで結構ですので、お話になって下さい。

当支部もいろいろな部分で課題を持ってやっていますが、県内の各支部の中でも安定した支部運営が出来ているのではと思っています。今後もこういう会が長く続くように、皆さんのご協力をお願いいたします。

・県友松会弘報部・黒川部員挨拶

先日、津田支部長さんに支部の様子を聞かせて下さいとお願いしました。すると支部長さんから「それでは9月11日に支部の懇親会をやるのでその日はどうですか」とお話があり、今日参加させて頂きました。今日は昭和22年卒の大先輩も居られるのですが、若い方も何人もおられるので、その方たちとお話をするのがとても楽しみです。

・乾杯—神保憲朗(昭和22年卒)

私は横浜の方にも長くいたし、下郡にもいたしいろいろな所にいましたが、友松会の組織にだんだん人が居なくなっていく、これは淋しいですね。だから今日は若い人が三人、こうして来てくれたのはとても嬉しい。やっぱり組織と言うのは若い人がいなければね。友松会に若い人が入ってくれないと言うのは、各地域の活動のありかたに問題があると思っています。今日はどんな人がどのくらい来るのかと思っていましたが、会場に来て「お！この間より良いぞ」と思いました。では友松会の発展を祈念して乾杯します。乾杯！

・自己紹介と近況報告

津田 今日も若い人が何人か見えているが、若い人を見ると自分の新採用の頃を思い出します。(S.45卒) 私の場合は国大紛争のために4月でなく7月の採用でした。産休補助と言うことで8月11日から産休に入った先生の代わりに初めて担任になりました。そしたら電話があって学級の児童が亡くなったというのです。脳腫瘍で長く入院していた子でした。翌日お葬式に行って棺の中にいる子どもの顔を初めて見ました。



私の学級担任の経験はこんなところから始まったのですが、学年主任の話によると学力テストの成績は私のクラスが最低とのことでした。そこで子供たちにそのことを話して、「明日からは1時間目の前に、この組は0時間目を始める。それに間に合うように登校しなさい」と言いました。

そしたら1週間目に校長室に呼ばれて校長さんに「お前は何をやっているのだ。親から見ればおまえは熱心で、他の先生は不熱心と言うことになる。すぐ止めなさい。」と言われました。そこで子ども達にあやまって早朝勉強は止めました。このように若い時に不適切なことをやっても先輩が指導してくれます。だから若いうちは思った事をいろいろやると良い。それが若さの特権ですから。

石川 早川小の石川です。私は 20 年前にも早川小に勤務していたので、つまり 2 度目のお勤めです。今の早川小の児童の中には、20 年前の教え子の子どもがいてそれがとても楽しいです。授業参観に来た昔の教え子が校長室に寄ってくれるので卒業アルバムを出して昔話をします。先日、公園での本校児童の遊び方について苦情の電話がかかってきたのですが、電話の相手は昔の教え子で、話は簡単に済んで良かったと思いました。



秋山 退職してから尊徳記念館のボランティアアガイドをしています。この仕事をして良かったことは、二宮尊徳について勉強して知らなかったことをいろいろ知ったことです。それから話をする対象が老人から幼稚園児まで幅広いので、相手の程度に応じて分かるように話してあげる、この時に教員時代の経験が役に立っていると感じます。

それから私は 76 歳の時に腹部大動脈瘤破裂で、もう少しで死ぬような経験をしました。東海大学病院に担ぎ込まれて 10 時間もかかる手術でした。なにしろ腹部の大動脈が破裂しているので腹の中はグチャグチャ、手術前に必要なレントゲンを撮るのも大変だったようです。私は麻酔で眠ってしまって分からなかったのですが家内の話では、いつ「御臨終です」と言われるかと思っていたそうです。

手術の後で医者から「よく持ちこたえたね」とほめられました。ふだん何か運動をやっているのかと医者に聞かれたので、特に運動はしていないが畑仕事をやっていると言ったら、「ああ、それだな。ふだん手足を動かしていることが大切なのだ」と言われました。皆さんも身体を動かしてふだんから健康に気を付けてください。

穂坂 富水小の穂坂です。この夏、娘が結婚しました(拍手)。もう自分もそういう時代になったのかと思います。後はジィジィになるのを楽しみにするばかりです。今後とも宜しく。

渡辺 芦子小の渡辺由香です。去年私は一カ月に一回風邪をひいて病院に行っていたのですが、今年は病院に行くのが 2~3 カ月に一回になり少しましになりました。でも身長ではクラスの二人の子に抜かれてしまい、子どもの成長を羨ましく思いつつ、身長以外の面で私も子どもに負けないように成長しようと思います。

伴野 町田小の伴野です。朝の登校時間に教頭さんと交代で通学路に立っているのですが、近所のおばあちゃんと親しくなって挨拶するようになりました。海の近くの学校なので、子ども達が「アジの開き」を作っています。他に「梅ジュース」も作っています。まだ他に子ども達が楽しいと思うことがないかなあと探しています。

さきほどお話になった穂坂さんは国大では私と同期です。校長会では「穂坂さん」と言いますが、こういう席に来ると「穂坂君」で、そういうふうと呼

べるのが友松会の良いところですよ。

今日吃驚したのは、久野小の古藤さんに、「先生、小学校の時に僕は隣のクラスにいました」と言われたことです。友松会は本当に長く繋がっている会だなあと感じました。私もあと数年ですが、退職した後は梅ジュースを作ったりしながら、この会に参加しようと思っています。

江 島 津田さんの前に私が支部長の時に、小田原支部と足柄下支部が合併して小田
(S.40 卒) 原・足柄下支部となりました。今、小田原市の体育協会の会長をやっている、学校の先生方にはお世話になっています。

話は変わりますが、8:2の法則と言うのをご存知ですか。ビールをコップについだとき、8割がビールで2割が泡だとウマイと言われてます。それを友松会に置き換えると、友松会の中で2割というのは何で、8割は何でしょうか。小田原支部はどうか知りませんが、県本部の方は2割でしょう。もちろん会費を払う人のことです。私は今県本部の会計監査をやっていますが、会計の面がとても厳しくてどうにもなりません。皆さん、会費をきちんと納めて友松会を支えましょう。

牧 野 再任用期間を含めて43年間教員をや
(S.44 卒) りましたが、その間でうまくいったなと思った授業は1回だけでした。その時は自分の頭で描いた指導案通りに授業がいったので、「やったぜ」と思ったのですが、授業が終わってから一人の子どもが私に、「僕たち意見は言ったの



だけけれど、終わって見たら何か先生に乘せられたみたい」とポロッと言ったのです。その時、自分にとってパーフェクトだと思った授業は、実は一番駄目な授業だったのかなと思いました。

それからは、完璧な授業でなくて良い、気持ちを大きく持って狙ったことの8割、いや6割くらい出来れば良いのだと思うようになりました。こういうところは準備出来ていないとか、こんなところが駄目だなあと考えて授業に臨んだ方が、ある意味で子どももいろいろな考えを出せるし、教師も子どもの考えを素直に聞いて「私よりよっぽど良い意見じゃん」と思ったり出来る。授業ってそういうものではないかなと思います。

今は授業から離れて他のことをしに東京に通ったりしていますが、また授業をやりたいなと思います。わが家は道の向こうが下府中小で、今の時期は運動会の練習の音が聞こえます。窓を開けていると国語の音読の音が聞こえてきます。そのうちにボーッと居眠りをして授業をやっている夢をみます。しかもその授業がうまくいきません。そうするとハッと目が覚めて夢だったのかと思います。その次に思うのは、「あーっ、もう教える子どもがいないんだなあ」ということです。そう思うととても淋しいです。教える子どもがいるということは幸せなのだなあと思います。

そのうち誰か、好きに授業やって良いよと私に子どもを貸して下さい。でも

実際そうして授業やったら、上手いかわなくて「もう二度と来るな」と言われるかもしれませんけれどね。

星 寄 東台福浦小の星寄です。牧野さんは根っからの先生だなと思います。国大
(S.58 卒) 歴史をみると鎌倉・清水が丘・常盤台と変わってきたが、我々の時代までは、皆が先生になりたくて国大に入学したと思う。教育人間科学部になってからは、そこの卒業生が教育界になかなか入ってこない。国大の卒業生が当たり前のように職場に入ってくる時代は終わってしまった。だから知らない人でも横浜国大出身と知ると何か親しみを覚えます。

私は共通一次元年の世代で、マークシートが始まった頃の入学です。私達の頃の国立大学は 9 教科 12 科目の入学試験でしたから基礎知識に偏りがなく、バランスの良い知識と感覚を持って入学し教師になった。今は私学の入試で 3 教科しか勉強しなかった人が先生になっている。そういう人は理科が分からなかったり音楽が出来なかったりする。だから今日来た若い人たちに大いに期待したい。子ども達の思い出に残る先生になって欲しい。

山 崎 芦子小の山崎です。子どもが男と女と二人いるが、今はどちらも独立して現
(S.55 卒) 在は夫婦二人で暮らしています。今日は白山中の学区の芦子小から私と渡邊さん、白山中の松下さんと三人できました。来年も友松会の仕事をやらして貰います。

松 下 白山中の松下です。平成 26 年の新卒です。
(H.26 卒) 大学では理科で「気象」を専攻しました。2 年目の今年は学級担任だけでなくサッカー部の顧問もやっています。私はサッカーの指導者ではないので、サッカーの技術的なことはなかなか教えられません。でも教員として白山中に来たのだから、上手い選手よりも良い選手を作りたいと思います。例えば挨拶をきちんとするとか、相手への敬意をもってプレーするとか、責任をもって行動するとかいう選手です。生徒のご機嫌とりをするのでなく、こういう選手になってもらいたいと生徒に求める、そういう指導者になりたいと思います。そして来年になった時に、先生のクラスで良かった、先生の部活で良かったと言われるような教師になりたいと思います。



古 藤 久野小の古藤です。昨年に国大を卒業しました。専攻は数学です。今年ゼミ
(H.26 卒) の後輩に採用試験の二次の対策を教えてほしいと言われて、国大に行きました。今の国大生で教員を目指す者は 5 割を切っているのですが、その中でも教員を目指す者は確りしています。そういう人たちが国大卒のプライドを持って職場に入って来た時に、そこに先輩がいれば安心できます。

・あとがき(H.27.9.23)

小田原の支部も和気藹々と活動しているようでした。やはり地元出身の人が多く、互いの人間関係が濃いからだと思います。「近況報告」の記録でもそれが分かるでしょう。